

菊川町埋蔵文化財報告書第32集

ごきゅう  
後久遺跡発掘調査報告書

1995

静岡県菊川町教育委員会

## 例　　言

- 本書は、平成6年12月12日から12月27日にかけて実施した静岡県小笠郡菊川町吉沢地内に所在する後久遺跡の発掘調査報告書である。
- 調査を行なうに至った原因は、周知の遺跡において農業水利事業菊川幹線水路その4が計画されたためである。調査に要した費用は、関東農政局牧之原農業水利事業所が負担した。
- 発掘調査は、菊川町教育委員会が関東農政局牧之原農業水利事業所より委託を請け実施した。

- 調査主体　菊川町教育委員会  
作業員　落合とき　進士きみ子　堀内初代　三ッ井しの　山崎ゆき  
整理作業　尾東寿子　水谷由美子　長谷山敏男
- 本書の執筆・編集は塙本和弘と後藤和風が分担して行なった。
  - 遺構写真は、後藤が撮影した。
  - 本調査および本書発刊に関する事務は、菊川町教育委員会生涯学習課が行なった。

菊川町教育委員会　教育長　鈴木 静夫  
生涯学習課　局長兼課長　横山 守孝  
文化振興係　係長　石川 瞳美  
文化財　調査員　塙本 和弘  
　　調査員　後藤 和風  
事務　臨時　西野 洋子

- 実測図・写真および出土遺物は、菊川町教育委員会が保管している。

## 目　　次

## 挿　図　目　次

第Ⅰ章　調査の経過 .....	1	第1図　位置図(1:2,500) .....	1
調査に至る経過 .....	1	第2図　トレンチ配置図 .....	2
調査の方法及び経過 .....	3	第3図　遺跡の位置と周辺遺跡 (1:10,000) .....	4
第Ⅱ章　地理的・歴史的環境 .....	5	第4図　A・B両トレンチ北壁土層断面図 .....	6
第Ⅲ章　調査の概要 .....	6	第5図　A・B両トレンチ北壁土層断面図 .....	7
層位 .....	6	第6図　Aトレンチ北壁土層断面図 .....	8
遺構 .....	8	第7図　Aトレンチ北壁土層断面図 .....	9
遺物 .....	9	第8図　石畳遺跡4号竪穴住居跡 .....	9
第Ⅳ章　ま　と　め .....	10	第9図　原段1遺跡2号竪穴住居跡 .....	10

## 第Ⅰ章 調査の経過

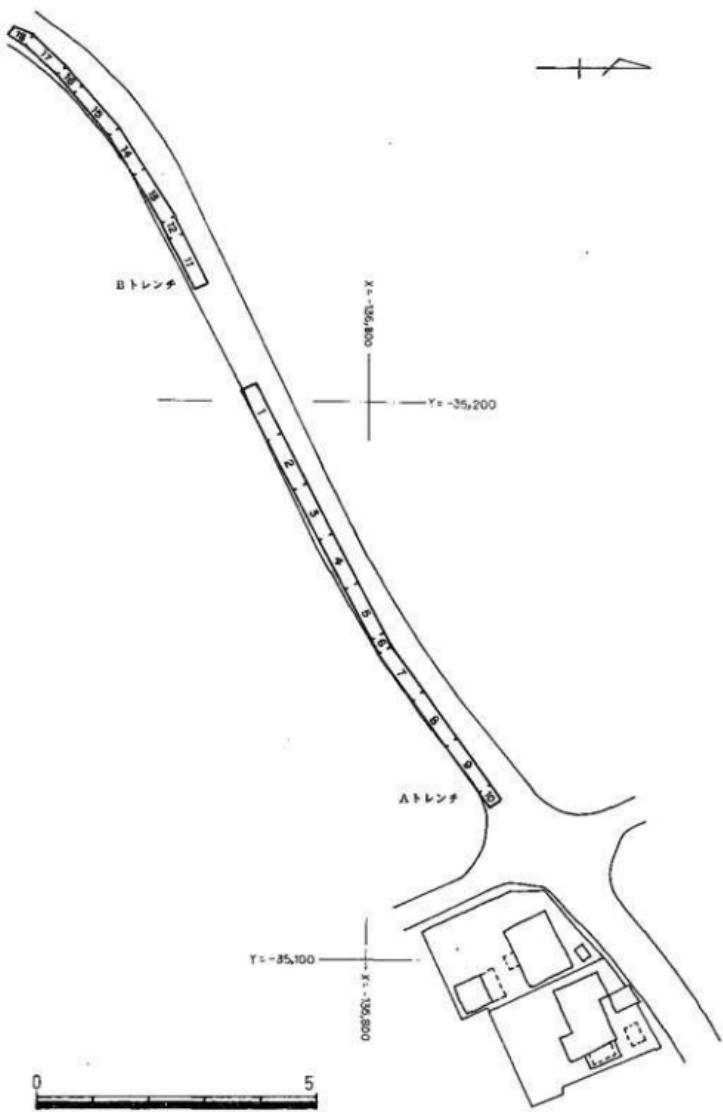
### 調査に至る経過

菊川町は、お茶を始め稻作・ハウス栽培など農業のさかんな地域である。この地域の農業がさかんになったのは温暖な気候などの自然条件に恵まれていたことと農業用水の普及が早くから行なわれたことがあげられる。農業用水は牧之原用水と呼ばれ、長島ダムに水源をもとめて取水するものである。この用水は昭和40年頃から工事が行なわれ現在も行なわれている。

平成6年11月初旬、関東農政局牧之原農業水利事業所より菊川町吉沢地内で幹線水路工事を行なうにあたり、文化財の有無の照会があった。工事計画内には、後久遺跡が分布していたため早急に協議がもたれ工事着手前に調査を実施することとなった。



第1図 位置図



第2図 トレンチ配置図

## 調査の方法及び経過

### 方 法 (第2図)

調査は幹線水路布設工事計画のうち、434.1m<sup>2</sup>を発掘調査の対象面積とした。調査方法は、機械により表土並びに耕作土を除去後、人力により掘削・精査・写真・測量の順に従い行なう。

調査区は細長く数mごとに屈曲し、いわばトルンチ調査である。このため測量用の基準杭は設けず、布設箇所を数回に分けて掘削し、順次平板測量で記録した。便官上2ヶ所の調査区をA・B区と呼び分ける。調査区内は調査区がまっすぐに続く間を10mごとに区切り、残る数m分と通して記番した。A区は西から、B区は東からである。

現地での作成図は、300分の1を基本にした。土層図は1mごとに各土層の標高を記録し、後日図化した。

標高は、工事に伴いあらかじめ設置された水準点BM(35.591m)を基準とした。

### 経 過

平成6年12月12日 A調査区を西から機械で表土除去した後、人力により、粗掘り作業と精査を行なう。自然流路1を検出する。これを精査、掘削、写真撮影と計測を行なう。

13日 排水作業を行ない、調査区の半分を計測する。

14日 調査区の残り半分を計測する。

15日 B調査区を東から機械で表土除去した後、人力により、粗掘り作業と精査を行なう。自然流路2を検出する。これを精査、掘削、写真撮影と計測を行なう。

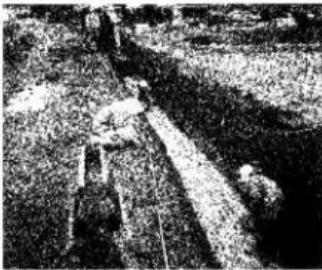
27日 西へさらに調査区を拡張し、精査、掘削、写真撮影と計測を行ない、現地調査を終了した。



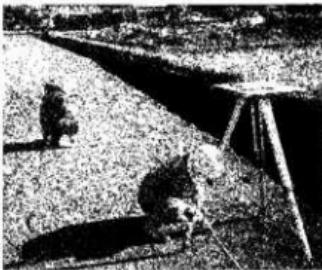
表 土 剥 ぎ



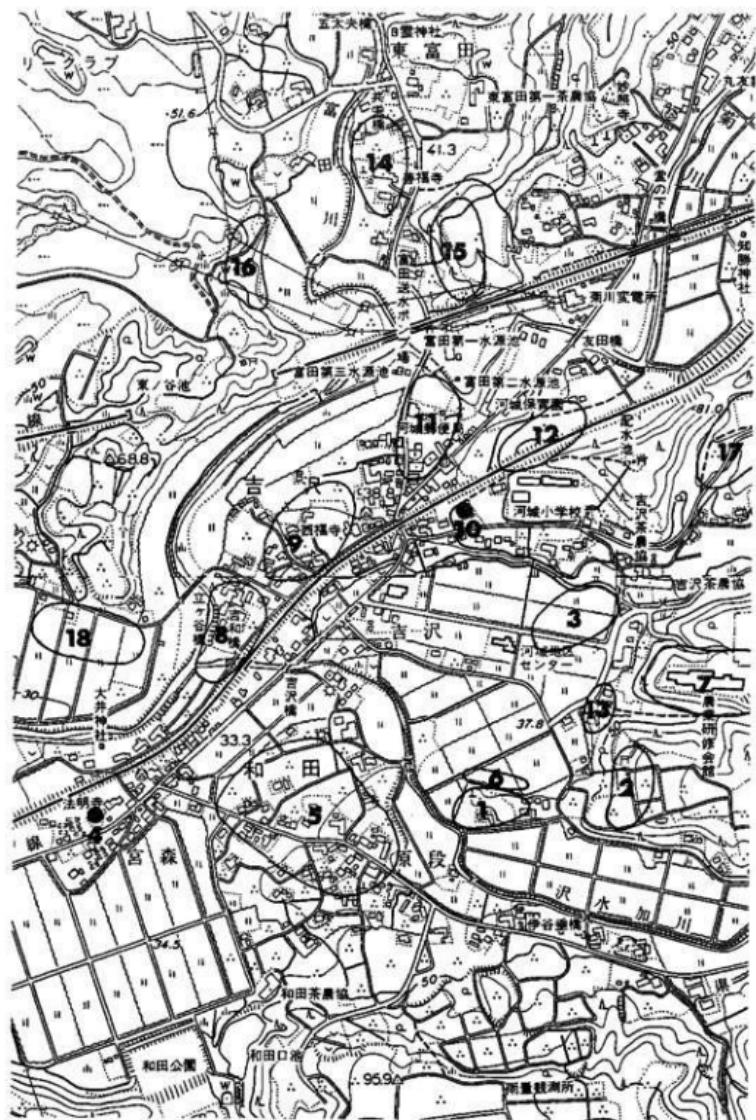
精 査



遺 構 検 出



測 量



第3図 遺跡の位置と周辺遺跡 (1:10,000)

## 第Ⅱ章 地理的・歴史的環境

後久遺跡は、JR菊川駅から東へ約2.6kmの菊川町古沢に所在する。遺跡は沢水加川や菊川によって形成された沖積地にあり、付近には水田が広がっている。牧之原台地の西裾にあり、標高約36mである（第1図）。

後久遺跡は古墳時代から鎌倉時代にかけての遺跡で、こうした軟弱地盤の沖積地に立地する。

後久遺跡を取り巻く歴史的環境はつきの通りである（第3図）。縄文時代では、当遺跡の南側に縄文時代後・晩期の石畳遺跡がある。舌状に張り出した段丘に立地する。標高は後久遺跡よりもいく分高い。昭和57・58年の2度の調査によって当該期の中心的遺跡であることが明らかにされた（第8図）。

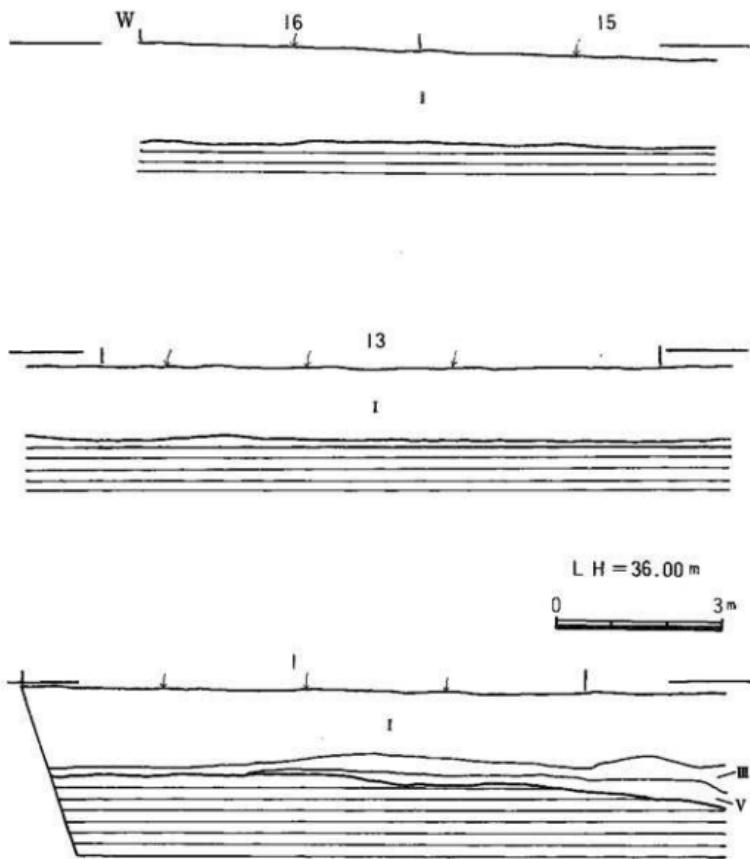
弥生時代では、台地上に赤谷遺跡がある。昭和57年10月に発掘調査されている。

古墳時代では、吉沢一帯に形成された沖積地に原段遺跡・山の神遺跡・海戸田遺跡・弥宣屋敷遺跡などが分布する（第9図）。これらの遺跡は古墳時代以後も継続している。

以上のように縄文時代後期以降沖積地を取り巻く環境には、人々の生活の跡が認められる。今回の後久遺跡の発掘調査では、この沖積地を形作ってきた自然環境と人々の営みを推し量る資料を提供したと言えよう。

番号	遺跡名	時代	位置	備考	番号	遺跡名	時代	位置	備考
1	石畳遺跡	縄文(後・晩)	菊川町沢水加	昭和57・58年調査	10	上ノ段遺跡	古墳(後)	菊川町古沢上ノ段556-1	
2	弥宣屋敷遺跡	不明	“吉沢		11	西峰Ⅱ遺跡	縄文	“友田	
3	海戸田遺跡	“	“吉沢海戸田		12	西峰Ⅰ遺跡	縄文(後)	“友田	
4	法明寺遺跡	古墳	“和田400		13	山の神遺跡	奈良・平安	“吉沢山神	
5	原段遺跡	縄文中・古墳	“和田原段		14	善福寺遺跡	縄文(中)	“富田	
6	後久遺跡	平安・鎌倉	“吉沢後久		15	西原遺跡	縄文	“友田	
7	赤谷遺跡	縄文・弥生後	“吉沢赤谷664	昭和28・57年調査	16	段前遺跡	弥生	“東富田上海戸	
8	古沢段遺跡	縄文	“古沢段324		17	千駄原遺跡	縄文	“吉沢千駄原770	昭和60年調査
9	西福寺古墳	縄文	“吉沢辻523-1		18	堂ノ前遺跡	平安・鎌倉	“吉沢堂ノ前	

第1表 周辺遺跡地名表



第4図 A・B両トレンチ北壁土層断面図

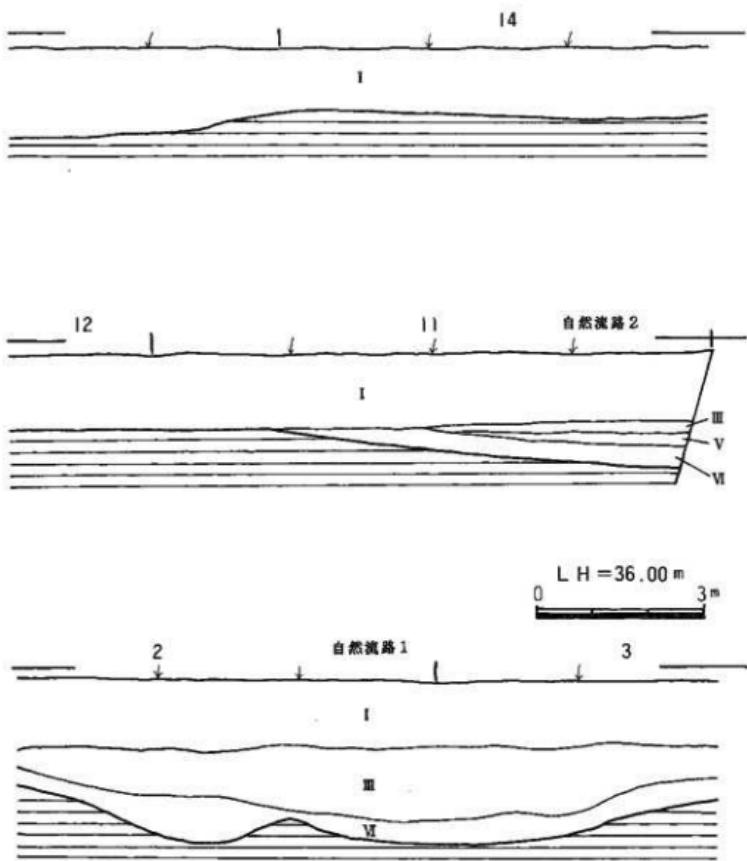
### 第三章 調査の概要

#### 層位(第4~7図)

基本層位はつぎの4層に識別できた。

I層 茶褐色砂礫土層(現代の盛土)

II層 黄灰色上層(現代の盛土)

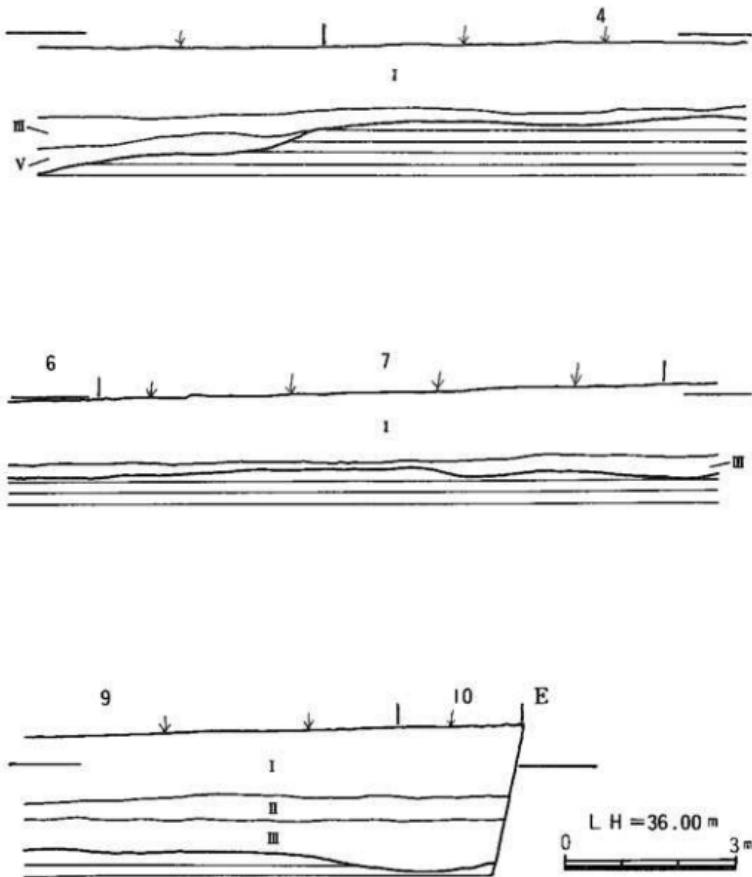


第5図 A・B両トレンチ北壁土壘断面図

III層 暗茶灰褐色粘質土層（近世以前）

IV層 灰青色粘土層（基盤層）

I層は現代に客土し、整地された盛土層である。舗装道路布設に伴う地盤改良のため、周辺一帯に見られる現代の水田耕作土を掘削・除去した後に土壤を入れ替えている。II層も現代の盛土である。よく締まった砂礫土でAトレンチの東部にだけ堆積している。III層は軟弱な粘質土層である。2本の自然流路も含め、調査区全域を覆って

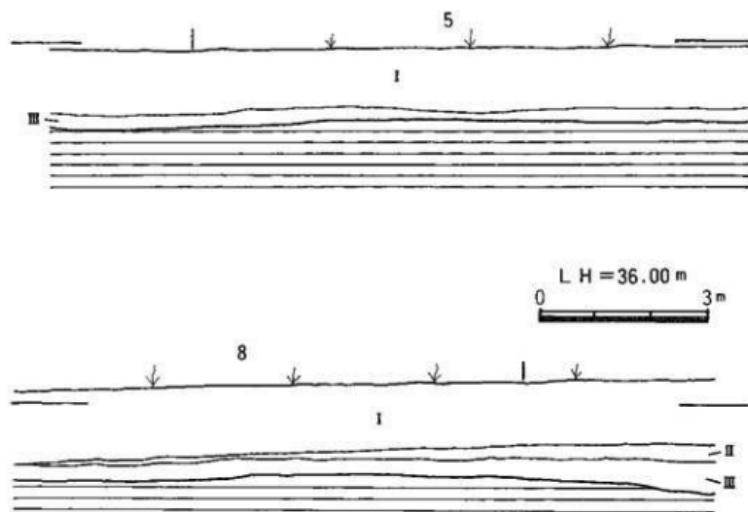


第6図 Aトレンチ北壁土層断面図

いる。道路布設に伴う地盤改良は本層を除去し、その代わりにⅠ層を客土したことが顯著に同える。Ⅳ層は基盤層である。本層上面は南北に緩やかに下降している。

#### 遺構(第4・5図)

明瞭な遺構は認めなかった。自然流路2ヶ所と近世以降に掘削されたと思われる溝1ヶ所が検出された。Aトレンチの自然流路1は最下層(V層)に灰黒色粘質土が見られた。また、Bトレンチの自然流路2は、V層の下に黒色粘質土(VI層)が堆積

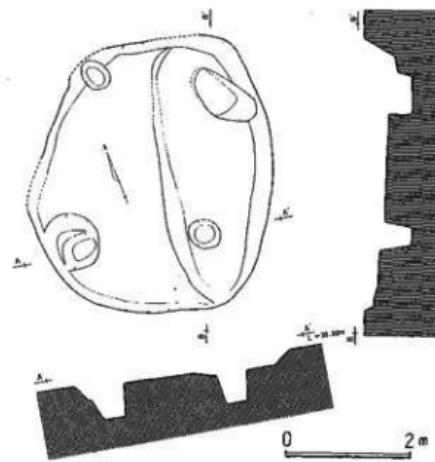


第7図 Aトレンチ北壁土層断面図

している。

#### 遺物

Aトレンチの東部のⅢ層からかわらけ1点が出土した。転摩をうけ、器種・部位とも判断できかねる。



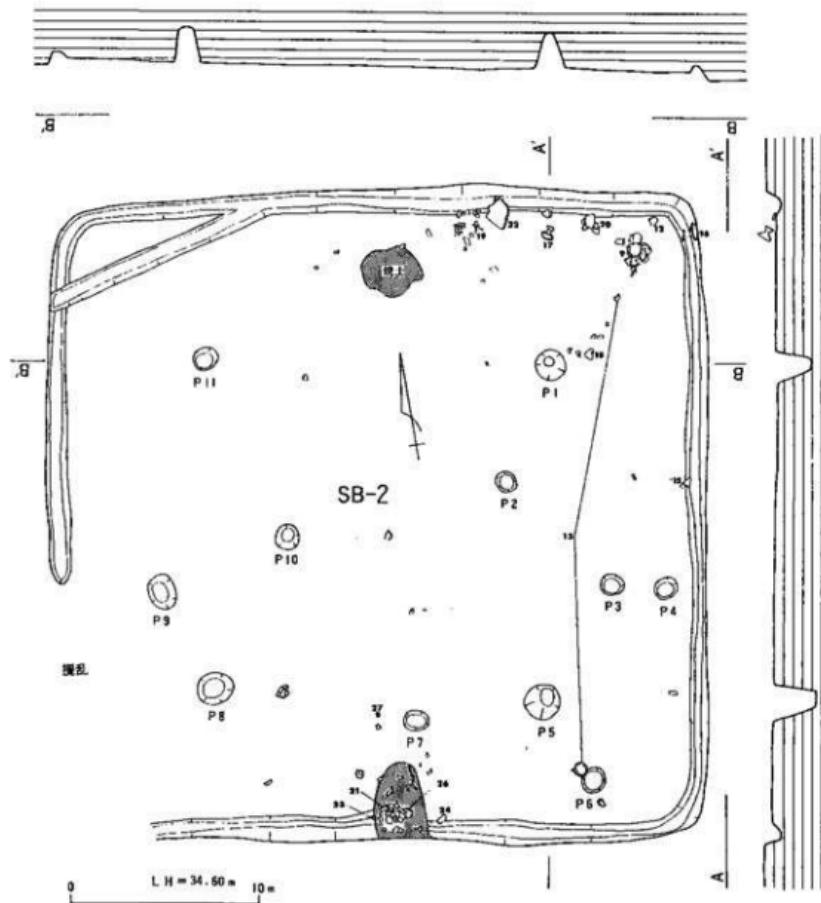
第8図 石烟遺跡4号竪穴住居跡

## 第IV章 まとめ

今回の調査成果はつぎの通りである。

○住居跡など直接的な生活の痕跡は見られず、出土遺物もかわらけ1点とわずかであった。

○しかし付近では、奈良時代の須恵器が表面採集されている。この点で当該期まで通



第9図 原段I造跡2号堅穴住居跡

る可能性を残している。

- 一方、現在水田となっている沖積地の形成過程が明らかになった。旧沢水加川はいく本かの枝のような流路であったことが確認された。

### 参 考 文 献

- 菊川町教育委員会 1983 「石畳遺跡発掘調査既報」菊川町埋蔵文化財報告書第1集  
〃 1984 「石畳遺跡発掘調査報告書」菊川町埋蔵文化財報告書第2集  
〃 1989 「原段I遺跡」菊川町埋蔵文化財報告書第16集

# 報告書抄録

上りがな 書名	ごきゅういせき 後久遺跡							
副書名								
巻次								
シリーズ名	菊川町埋蔵文化財報告書							
シリーズ番号	第32集							
編集者名	後藤和風・塚本和弘							
編集機関	菊川町教育委員会							
所在地	〒439 静岡県小笠郡菊川町堀之内61 TEL 0537-35-0925							
発行年月日	西暦 1995年3月20日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯 ○○○	東経 ○○○	調査機関	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号				m <sup>2</sup>	
後久遺跡	小笠郡菊川 町吉沢	22464	28	34度 45分 59秒	138度 6分 57秒	19941212 ? 19941227	434.1m <sup>2</sup>	かんが い用水 路布設 工事に 伴う事 前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
後久遺跡	河川跡	中世	溝 自然流路	1ヶ所 2ヶ所	かわらけ			

後久遺跡発掘調査報告書

1995年3月20日 発行

編 集 静岡県菊川町教育委員会  
発 行 静岡県菊川町教育委員会  
印 刷 株式会社 開 明 堂